

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科農業土木コース
平成20年度外部委員会（教育目標評価委員会・教育システム改善委員会）合同会議 記録

日時：平成21年3月7日（土） 15：00～16：55

場所：農学生命科学部131室

出席者：〔外部委員〕 山形, 笹森, 田中, 砂沢, 山田, 櫻田(隆), 桜田(清)

〔プログラム教官〕 工藤, 泉, 佐々木, 角野, 加藤, 谷口, 高橋(照), 檜垣, 藤崎

進行：工藤 記録：藤崎

前回の記録の確認

資料の通り承認された。

議 事

議事に先立ち、まず、資料1に基づき、中間審査の最終審査報告書が届き2010年までの認定が正式決定し、次回2010年に継続審査を受審することとなったこと、また、編入生に係る基準3. 1 (3) と5 (2) では、A (適合) だったのがー (審査対象外) に修正されていたことが報告された。

次に、資料2に基づき、新学科が発足したことに伴い、変更通知を最終審査報告書受理後に提出したことと、変更時審査不要との回答が届いたことが報告された。また、新学科となった平成20年度入学生については、平成20年度版小冊子で指導していることを報告した際、学科定員減少について質問があったが、農業経済分野が園芸農学科に移ったことによるもので、農業土木分野としては、従来第1コースで27人前後だったのが30人になったとの回答があった。

(1) 教育目標評価委員会

1) 平成22年度の継続審査に向けた対応

資料3に基づき、2010年度審査からJABEEの認定基準が改定され、デザイン能力がより求められていること、学習保証時間が授業時間となることなどの説明がなされた。

従来の学習保証時間と新基準での授業時間との違いについての質問に対し、卒業研究指導などの時間の取り扱いが楽になる側面があるとの回答があった。また、2010年度版への対応はいつの時点から行うのか質問があり、2010年度入学生から完全対応する予定であることの回答があった。

そして、新基準に対応して受審する予定であること、2010年の継続審査は一から全体的に審査されることので、修了生アンケートを行い準備していくことが了解された。

2) その他

特になし

(2) 教育システム改善委員会

1) 教員連絡会議規則の一部改正

資料4に基づき、21世紀教育センター教員や農場教員などをプログラム関係教員と位置づけ連携を明文化し、年1回程度会議を開催していること、これは中間審査でC(懸念)と判定された事項に対応するものであることが説明された。

他学部のJABEEプログラムとの連携について質問があり、以前はFDなどを一緒に行っていたものの近年は交流が少ないとの回答がなされ、今後、交流を持つことが望ましいとの意見も出た。

そして、規則の改正が了承され、A判定目指し実績を重ねていることが了承された。

2) 学生の学習目標達成状況

資料5に基づき、プログラム修了生の修了基準達成状況と、3年生、2年生の成績状況が報告され、了承された。

3) 成績評価「秀」の取り扱い

平成19年度入学生から大学の成績評価に「秀(90点以上)」が導入されたことの説明があり、現在、プログラム独自の成績達成基準として、優5点、良3点、可1点として加重平均して修了判定を行っているシステムに影響することが説明された。

大学が秀を導入した意図について質問があり、従来、良と可が10点の幅であるのに対し優は20点の幅があるので、より努力している学生を正當に評価したいことや国際評価との関係もあるのではないかと回答があった。また、秀を取得した学生の利点について質問があり、奨学金申請の評価点などで高評価につながるとの回答があった。

そして、プログラムにおける成績達成基準としては、当面の間従来のシステムを生かすこととして、「秀」についても「優」と同等の5点の重みをつけて修了判定することが了承された。

4) 教育褒賞について

資料6に基づき、教育褒章選考委員会がメール会議で教育褒章対象者を選定したことが報告され了承された。

5) その他

JABEEとは別だが、学部後援会の経費で学生表彰が行われており、卒業研究発表会の評価、総取得単位数、優の取得単位数などを勘案し選出していることの紹介があった。

JABEE導入による女子学生への影響や学科名変更による受験生への影響について質問があった。JABEEについては女子学生の方が資格取得につながるの熱心な一面があること、「工学」をつけたが結果的には倍率が上昇したことの返答があった。さらに、農業土木として一般土木との違いをしっかりと訴えるべきとの意見があった。

また、JABEEの高校生への浸透が不十分な面があるとの意見がある一方で、コンサルへの就職では有利な面が生まれてきているのでPRに使えるとの意見があった。

さらに、2年生の中から3名の留学生が生じることについて、弘前大学の国際留学センターを介して26の提携校があり語学留学が安価に可能であることの紹介があった。

その他

今年度で2年の任期が満了したことへの感謝の言葉があり、次年度について、基本的には留任をお願いしたいが、辞退の希望の有無や2つある委員会の一本化など考慮しつつ、次年度の体制を考えていきたい旨、説明があった。